

「中部山岳国立公園雲ノ平地区自然体験活動促進協議会」設立趣意書

本活動の対象地となる「雲ノ平地区」は、中部山岳国立公園の最奥部、標高2600mの黒部源流域に位置します。アプローチの遠さから「最後の秘境」とも言われ、その貴重な環境や美しい景観を求めて、年間1万人を超える登山者が訪れます。美しい景観を有する黒部源流エリアですが、長年にわたり登山者が多く入域することにより、登山道の複線化や植生の踏み荒らしを起因とする周辺環境の荒廃等が発生し、本来登山者に提供すべき原生自然環境の探勝という「雲ノ平」ならではの自然体験を十分に提供できていない状況であり、木道の腐朽の進行により歩行が困難な箇所が発生に伴う転倒・転落事故が生じています。

その背景として、登山道を適正に維持管理し、自然環境の保全を実行する公的な運営体制が成熟せず、山小屋や山岳会等の民間団体を中心とした保守・管理が行われてきました。近年では、異常気象により従来以上に登山道周辺の環境が加速度的に荒廃し、さらにコロナ禍による山小屋の経営環境の不安定化を起因とした人手不足が自主的な保全・管理をも妨げる結果となり、利用と保全のバランスを大きく失われつつありました。

折しも環境危機や資源の枯渇が浮き彫りになる中、SDGsが経済活動の規範になるなど、社会と自然環境との関係性を見直す動きは国際的な潮流となっています。その流れは若年層を中心にしたアウトドアへの関心の高まりとしても顕在化し、近年では地域振興の重要な戦略として、山岳利用、環境教育、地域経済が共存する形として、体験型のエコツーリズムが位置付けられる傾向が強まってきています。

こうした一連の問題に対応すべく、「登山道の整備および環境保全の実践」と「自然環境の学習」という2つの方向性を組み込んだ、新たな形のボランティア・エコツーリズムの試みとして、雲ノ平山荘が中心となって関係者有志により2021・22年と2回に渡って「雲ノ平登山道整備ボランティアプログラム」を開催しました。一般募集により、多様な背景を持つボランティアスタッフを採用し、専門家の講習のもとで自然観察や座学、並びに実践的な整備・保全活動とその技術の習得を行いました。

2022年7月には、ボランティアプログラムに参加した有志メンバーにより、今後のプログラム運営と登山道の維持管理を自律的に行うための団体「一般社団法人雲ノ平トレイルクラブ」が発足されました。

上記の「登山道整備ボランティアプログラム」を発展させ、自然体験活動促進協議会を通じて行政との連携も強化する中で、より多くの人材を柔軟に受け入れる体制づくりを進めながら環境保全活動を展開するとともに、参加者に上質な体験の提供を目的とし、その推進に向けた合意形成や共通の方針の策定、事業の役割分担等について協議する機会として、自然体験活動促進事業の実施者をはじめ、施設管理及び土地所有者や関係者、行政などを構成員とし、自然公園法第42条の2の規定に基づき「中部山岳国立公園雲ノ平地区自然体験活動促進協議会」を設立するものです。

